

「共鳴」が起こるとき

なぜ、この世界は、
自然に、秩序や構造を生み出していくのか。

その深遠な問いに対して、
生涯をかけて、答えを求め続けた科学者がいます。

自己組織化の研究でノーベル化学賞を受賞した、
イリヤ・プリゴジン博士。

そのプリゴジン博士が、
自己組織化の理論を語った著作において、
不思議なほど「詩的」な言葉を残しています。

平衡状態において、
分子は、隣の分子しか見ていないが、

非平衡状態において、
分子は、システム全体の分子を見つめている。

そして、そのとき、
分子は、互いに「共鳴」を起こし、
システムは、自己組織化を遂げていく。

このプリゴジン博士の言葉は、
科学の世界について語っているのでしょうか。

それは、我々に、
もっと大切なことを教えてくれているように思えます。

20世紀の最後にやってきた情報革命。
この革命は、いま、社会や市場や企業において、
「情報共有」を押し進めています。

そして、その社会全体での「情報共有」が、
多くの人々の間での「情報共鳴」を起こし、
社会の隅々での「自己組織化」を促そうとしています。

もし、そうであるならば、我々は、
この革命の奔流に目を奪われることなく、
自らに、問うべきでしょう。

我々は、システム全体を、見つめているか。

その問いを、
深く、問うべきなのでしょう。